

島津久光・小松帯刀による幕末維新政治史の再構築

町田 明広

二〇一五年

〈2〉論文

①「第一次長州征伐における薩摩藩—西郷吉之助の動向を中心に—」

『日本研究所紀要』（以下『紀要』）第8号、二〇一六年

②「元治元年の中央政局と薩摩藩—禁門の変に至る道程」、『神田外語大学紀要』第二十七号、二〇一五年

③「元治元年前半の薩摩藩の諸問題—小松帯刀の動向を中心に」、『紀要』第7号、二〇一五年

④「禁門の変における薩摩藩の動向」、『神田外語大学紀要』第二十六号、二〇一四年

⑤「元治国是の確立と大政委任」、『紀要』第6号、二〇一四年

〈3〉学会報告

①「長州征伐と薩摩藩—西郷吉之助の動向から」、明治維新史学会例会、二〇一四年

の究明、④薩摩スチューデントを例にした薩摩藩の対外政略や国際認識の解明、⑤薩長同盟に至る薩長両藩の政治的志向性の変遷の分析、この五項目を主たる課題とした。

研究方法としては、刊本史料・文献の一部収集と徹底的な読み込みを行い、加えて、憲政資料室、鹿児島市黎明館、山口県文書館での未公刊史料の調査・収集・分析を積極的に実行した。併せて、鹿児島では地元研究者との交流・意見交換を行い、調査結果の補完を行った。

なお、このプロジェクトの実績としては、以下の通りである。

〈1〉単著

①『グローバル幕末史』、草思社、

元治元年（一八六四）から慶応元年（一八六五）における政治過程を、薩摩藩、特にこれまで西郷隆盛・大久保利通を中心とする歴史観によって等閑視された最高権力者・島津久光と、その側近で現場での政局運営の総指揮官・小松帯刀を基軸として、幕末維新政治史の再構築を試みた。

研究概要としては、禁門の変から薩長同盟に至る事象を、久光・帯刀の視角から分析した政治過程の解明を行った。具体的には、①久光を頂点とする薩摩藩内における意思決定・指示命令系統の仕組みと帯刀以下藩士の役割分担の検証、②久光・帯刀に対抗する藩内勢力の実態の考察、③この間の国事周旋を可能とした薩摩藩の財政的基盤